

中濱直之 研究者

絶滅危惧種という言葉をご存じでしょうか？名前の通り、今後地球上から永遠に失われてしまう（Ⅱ絶滅）リスクの大きな生き物の種類を指しています。特に、絶滅の危険が大きな生き物はレッドデータブックで「絶滅危惧ⅠA類」にランクされており、多くの種類で絶滅を防ぐための努力がなされています。

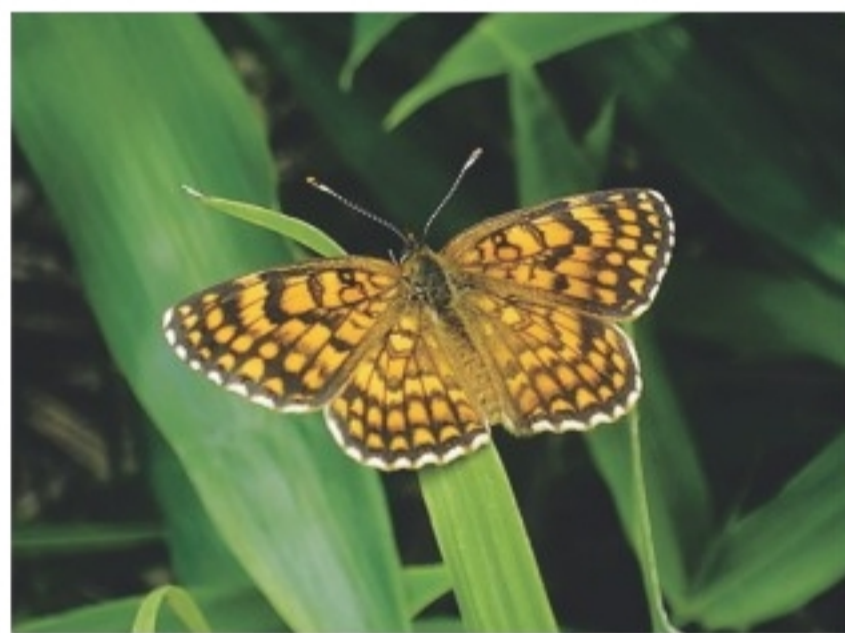
この絶滅危惧ⅠA類の具体例を挙げてみましょう。イリオモテヤマネコはアジアに広く分布するベングアルヤマネコの亜種で、西表島のみ分布しています。現在の生息数はたった100頭前後とされ



ています。悲しいことに年間数件の交通事故が発生しており、イリオモテヤマネコの減少理由の一つとなっています。ウスイロヒヨウモンモドキは、もともと兵庫県から島根県にかけての草原に広く生息していました。しかし、草原の減少やシカの食害などにより各地で絶滅し、いまや生息地は数カ所程度にまで減少しています。また、小笠原諸島のみ分布するムニンツツジは、環境省のウェブサイトにによると野生の株は残りたった一つ！という状況です。これらについて、絶滅を回避するためにはどのような保全対策が実

絶滅危惧種

ウスイロヒヨウモンモドキの成虫



指します。次に「生息域外保全」については、国内の動物園や植物園、水族館などで人工的に飼育栽培することで、絶滅危惧種そのものの絶滅を防ぎつつ、生息環境が復元され次第、野生復帰を目指します。先ほど列挙した3種はいずれも絶滅を防ぐため、生息域内・域外の両方から保全活動が行われています。

こうした絶滅危惧種を野外で見かけることは極めて困難ですが、種類によっては動物園や植物園、水族館などで生きた姿を見ることができ、ひとくくをはじめ各地の博物館で標本なども公開されています。ぜひとも一度こうした施設で絶滅危惧種をご覧になって、どうすれば絶滅危惧種を守ることができるとかについて考えるきっかけにしたいだけです。詳しく思います。

ひとくく
研究者
だより

減った理由を考えてみよう